

2026年1月11日 第二礼拝 二十歳の感謝

説教題『Fixed On Jesus』ヘブル人への手紙12章2節（口語訳）

主任牧師 加藤 誠

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである」(ヘブル人への手紙12章2節：口語訳)

今朝は、2025 年度に二十歳になった若者／なる若者を覚えて、共に礼拝できる幸いを感謝します。彼女／彼らに贈る御言葉として、今年はヘブル人の手紙 12 章 2 節（口語訳）を選ばせていただきました。英語聖書ではこうなっています。“Having our eyes fixed on Jesus, the guide and end of our faith.” 私なりに訳すると「このイエスから目を離さず、しっかり目を注いで歩もう。この方こそ、私たちの信仰の始まり、私たちの信仰を神につなげてくださる方なのだから」という御言葉です。

Fixed on というのは「ぴったりくっつける。どんなことがあっても離れない」という意味です。私たちは自分の目をふだんどこに向けているでしょうか。多くの場合、周りのみんなが持っているもの、着ているもの、話していることに向けられているのではないのでしょうか。SNS という形で、個人が自分の日常を情報発信することが当たり前の時代になりました。でも、そこで発信されている写真などは、ものすごくきらびやかな写真、いわゆる「盛られた写真」が多いように思います。そのような写真や情報ばかり見ていると、自分の日常が彩のない、くすんだものに見えてくる。ですから、ある人は「SNS には人と人とをつなげる良い面もあるけれど、他人の幸せにあふれた写真や情報を過度に見せつけられて、人々の心を貧しく、さもなく、時には妬みや憤りに導くきっかけになっている」と語っています。

V・フランクルという精神医学者は、昔から人は「他の人々がしていることを望み（大勢順応主義）、他の人々が自分に望んでいることをする（全体主義）」に傾きやすいと語っています。要は、私たちの目は周りの人たちを見て、周りの人たちの持ち物、考え、言葉に支配されてしまい、その結果、自分自身の人生の意味、人生でわたしだけにできることをじっくり考えることなく、「空虚な人生」「生きる意味を失った人生」を生きることになっている…と語っています。

そのような私たちに対して聖書は「私たちの目をイエスという方にしっかり向けて生きよう！」と語ります。なぜなら、この方は私たちの信仰の始まりであり、私たちの信仰を神につなげてくださる方だから。そして、私たち一人ひとりが生き生きと自分を生きられるように導いてくださる方だからです。私たちは神が愛を注ぎ命を与えてくださった一人ひとり、「神の作品」（エペソ 2：10）です。この「作品」という言葉は「手作りの作品」という意味。それぞれユニークな命、人生をいただいている。

それは他の人に替わってもらうことができない、わたしにだけ与えられた人生。その人生をどう生きるのか。それは私たちに命を与えてくださった神とのつながりでしか、見えてこないもの。その神はどういう方で、どれほど私たちのことを愛してくださっているかを伝えるために、主イエスは生きられました。

クリスチャンの若松英輔さんが書いた詩があります。「みんなが／笑っているとき／わたしは　ひとり／泣いていたことがある　みんなが／祝っているとき／うめいている人も／いるだろう　この世界には／誰も　気づかないところで／見知らぬ他者のために／祈っている人がいる　見えない場所で／気づかれないように／そっと　誰かを／支えている人がいる」（「現実」詩集『ことばのきせき』より）。

若松さんは40代前半で愛する妻を病気で失いました。他の人には理解してもらえない悲しみを抱えて歩んできた人だから持ち得る優しさを感じます。そして、この詩をかみしめるように静かに読んでみると、「他の人たちの行動や言葉、持っているもの」が気になりがちな私たちだけ、私たちはそれぞれ他の人とは違う「ひとり」であり、人々が望むようにできない「ひとり」なのであって、その「ひとり」をたいせつに生きてよいのだ…と、そっと背中を押される力をもらうと同時に、この世界のどこかで同じように「ひとり」を生活している誰かに思いを向ける優しさを示されます。

また、若松さんが後半に書いている「誰も気づかないところで、見知らぬ他者のために祈り、見えない場所で気づかれないようにそっと誰かを支えている人」とは、まさにイエス・キリストのことです。主イエスという方は「ひとり、泣いている人」「ひとり、うめいている人」をたいせつに探し出すように、祈り支えるために歩まれました。例えば大勢の人々が押し寄せる中で、主イエスの服の裾に後ろからそっと触れた女性がいました。彼女は真正面からイエスに会う自信がなく、人々から何と言われるかおびえて隠れるように生きてきた人。だから、みんなにまぎれてそっと後ろからイエスに触れた。けれど主イエスはその「ひとり」を大切に感じられて、「大丈夫、あなたは神さまに愛されている大切な人。あなたの信仰を大切に安心して生きていきなさい」と、彼女の真正面から声をかけてくださったのでした。そのようにして、ほかのみんなとは違う「わたし」を大切に覚えて、受けてくださって、祈り支え、神の愛につなげるために主イエスは生きてくださった方。その方にしっかりと目を注いで生きるとき、わたしたちは自分に語りかける神の愛の御言葉を聴く者とされるのです。

盛られた写真や盛られた言葉に惑わされることなく、私たちの目をしっかりと聖書の主イエスに注いでいきましょう。この方は慰めと優しさをもって私たちを神の愛とつなげてくださるだけでなく、時には厳しい問いかけ「それでいいのか？」と私たちの在り方を揺さぶることで私たちの神の正しさにつなげてくださる方です。この方につなげられて信仰をいただいでいきましょう。二十歳の若者たちに祝福を祈ります。